



1階の奥では木をふんだんに使った面が裏を囲む広間を見ることが出来る。隣接する薪ストーブの広間と共に「火を囲めながら寛ぐ時間」を提案する



和モダンスタイルをテーマにした古民家再生モデルハウス。[ハウスランド社]専属の経験豊富な大工職人が8ヶ月に亘って改修工事にあたったそう

家づくりの
お宅訪問
interview with new house!

REPORT #00

モデルハウス 和の家『吉木』

四季の移ろいを五感で味わう 和モダンの住まいへようこそ

和食が日本人の心を掴むように、和の暮らしもまた、我々の心に響く。
[ハウスランド社]が提案する、自然素材に囲まれた和モダンスタイルの魅力とは。



1階玄関ホール横の、床の間を備えた10畳の和室

築90年の古民家をフルリノベーション
和の家「吉木」は、縁に囲まれた筑紫野市の山麓に建つ「ハウスランド社」のモデルハウス。昭和初期に建てられた築90年を越える古民家をフルリノベーションして再生させた建物だ。どっしりとした瓦と西洋漆喰を纏った趣のある外観が、訪れる人を穏やかに待ち構える。重厚感のある玄関の引き戸を開くと、木の温もりと懐かしい雰囲気、木の間が広がる。
取材に訪れたのは、まだ寒さが残る3月初旬。アメリカ製の薪ストーブが火を灯し、やさしい温かさで室内を包んでいた。1階には吹き抜けのある玄関ホールをはじめ、床の間を設えた10畳の和室や囲炉裏を囲む広間、2階には書室やギャラリースペースというように、広い室内に多様なスペースを展開



1階の天井を外して作ったという玄関ホールの吹き抜け。薪ストーブの熱が2階へと伝わり、家中が温かい

趣のある照明器具や季節を感じるあじさいなど、室内には和の佇まいを醸し出すヒトが盛りだくさん



する。昔ながらの「田の字型」の字に並ぶ部屋で構成された間取り(で建てられた元々の骨組みを生かし、内部はほぼ作り替えたという。ただし、棟持ち梁や広縁の縁桁(えんげた)屋根を支える長い桁(ながぐ)以前の風合いを散らして残した部分も。それらは当然のようにそここゝあり、新しい装いと見事に融合している。
「家は修繕し、きちんと手入れながら使うことで100年でも2000年でも持つんです」と社長の上信比古さんがじっくりと教えてくれた。